

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014	インターン番号	KB1040	タイプ	公募型
派遣国	インド			派遣都市	ムンバイ
受入機関	Reliance Infrastructure Limited [Electricity Distribution Sector]				
受入機関概要 (事業内容等)	インド国内で発電、送配電事業やメトロ（私鉄）の建設と運用、道路整備事業などを展開				
派遣期間	2014年9月3日～ 2015年1月20日				
現在の所属先	メルボルン大学 大学院		当時の所属先	なし	
現在の所属部署	工学部 エネルギーシステム 修士課程		所在地		
区分	学生		性別	男性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

ムンバイを訪問した時に経済発展のスピードや将来の成長性に圧倒され、職務経験がある電力産業で経験を積んでみたいと思い、インターンシップを応募しました。またインターンシップを通じて、日本とインドの電力会社間で将来的な事業につながるチャンスを探したいと思い参加しました。インターンシップ後に進学を決めていたため、日本とインドの電力業界で必要となる知識やスキルを大学院で深めたいという動機も持っていました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

リライアンス社の電力設備や各部署での仕事内容を見学し、一般的な日本の電力設備と異なる部分についてお互いに話し合い、情報を共有するといった内容でした。インターンシップ終盤にはテーマを一つ絞り、日本とリライアンス社との電力システムを比較することで、改善できそうな部分を提案する活動をしていました。また、リライアンス社と日系電力会社の新規協力関係について話し合いを始めました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

インドの電力運用システムと機器、通信インフラのおおまかなガイドラインや基準に関する知識が得られ、日本の配電システムのアピールポイントと課題も理解することができました。また、電力システムの自動化と通信ネットワークの信頼性の改善策を提案でき、リライアンス社の電力システムの信頼性と安全面向上に貢献できるのではと思います。

リライアンス社の関連会社を訪問することで人的ネットワークも深まり、インドの職場の雰囲気や文化、コミュニケーションの取り方など貴重な経験も積めました。またインドに派遣された同期インターン生だけでなく、業種に関わらず他国のインターン生とも繋がりができたのは、このインターンシッププログラム独自の良さだと思います。

インターンシップ風景



火力発電所の石炭貯蔵所見学



ケーブル不良箇所取替え工事の見学

4 インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

大学院の長期休暇ごとにリライアンス社でお世話になった方々を訪問し、最新の事業の動向やお仕事の内容などを伺っています。また最近では、リライアンス社より日系の電力会社を訪問し、研修施設などで電力設備の見学や、その後の人材交流や事業協力ができないか、協議を続けています。こうして双方に入り込んで、新しい案件の提案やリアルタイムの情報交換の役割を果たせるのは、インターンシップの経験がおおいに活かしているのではないかと思います。

同期のインターン生との横の繋がりも、インターンシップで得た大きな財産だと思います。例を挙げますと、インドの他のインターン生の紹介により、他州の電力会社と強くつながりがある方を紹介して頂き、現在インドの送配電線のロス軽減に向けた、インドと日本の電力会社の共同ビジネスについて、現在調整を進めています。このように、まったく事業分野が違う同期に話をしても、予想しなかったところで新しい仕事上のつながりが生まれるのも、このインターンシップ事業の魅力ではないかと思います。

また、今回のインターンシップ事業で派遣されたインターン生同士の横のつながりを継続させるため、有志の一人として同窓会を立ち上げ、今後の新興国ビジネスで協力し合える関係づくりに取り組んでいます。ゆくゆくは現在の同期生のつながりを縦に展開していき、各年度ごとのインターンシップ生をうまく繋いでゆけたらと、有志一同で模索しています。

私が現在専攻している大学院のコースでも、今回のインターンシップの経験がおおいに役立っていると感じています。このコースは、火力発電や自然エネルギーなどの発電技術を、技術的、環境的な視点、またビジネスの面から評価することにフォーカスしています。新興国では急激な需要増加で火力発電に大きく頼らなければいけない反面、二酸化炭素の削減などにも同時並行で達成する必要があり、インド政府が発電容量の増加と電力設備のスマート化を同時に進めている理由などが、はっきり理解できました。このように、インドの現場で自分が見聞きしたことが大学院で学んでいる内容と一致し、インターンシップの経験が現在の学業を充実させていると実感しています。また、アジア各国のエネルギー産業から大学院のコースに留学生が来ており、卒業後にこうした留学生とのつながりをさらにインターンシップ事業で得られたネットワークに反映できるのではないかと考えています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

新興国でのインターンシップは、旅行や留学よりも魅力的な経験ができる、とてもいいチャンスです。また、新興国の仕事現場に入り込む機会は簡単に得られるものではありません。資金面の補助や、安全面や健康面などのサポートも、HIDA、JETRO、現地協力機関の方々より頂けますので、安心してインターンシップに専念することができます。なによりも、現地でたくさんの友人や知り合いができ、また他のインターン生とも強いつながりができます。こうした機会を得るチャンスがインターンシップ事業にはありますので、学生、社会人問わずぜひとも多くの方たちに参加して頂ければと思います。

現在の活躍の様子



夏季休暇時に配電線工事を見学（インド）



授業の一環で石炭火力発電所の見学（オーストラリア）